

林忠彦の世界

東京都写真美術館

1993年11月19日(金) ~ 1994年1月18日(火)



林忠彦の見た戦後、カストリ・文士・そしてアメリカ。

主催／東京都写真美術館 休館日／第2・第4水曜日、12月23日・1月4日 開館時間／午前10:00~午後6:00(入館は午後5:30まで)
観覧料／一般・大学生200(160)円、小・中・高校生100(80)円、()内は10名以上の団体料金 所在地／〒150東京都渋谷区恵比寿4-19-24 Tel. 03-3280-0031(代)

日本女性と東京見物する連戦軍兵士 / 皇居前広場 1954年

林忠彦の世界

TADAHIKO HAYASHI

1918(大正9)年、山口県徳山市の営業写真館に生まれた林忠彦は、第二次世界大戦後の焼け野原となった東京の風俗や無頼派の文士たちを写し、戦後報道写真の先駆的存在となった写真家です。特に銀座のバー「ルパン」で撮影した織田作之助や太宰治、執筆中の坂口安吾らの写真で始まる文士シリーズは、『小説新潮』に掲載され、書斎などの背景に人物を組み入れる手法で、文士の内面性を描写した新しいポートレートとして高い評価を受けました。その後も画家や家元などの肖像を小説雑誌等に発表し続けた彼は、人々によく知られ、最も親しまれた写真家の一人に数えられています。

また、旅好きで有名な彼は1990年に亡くなるまでに多くの風景写真も残しています。癌と闘いながら車椅子で『東海道』の撮影を続けた林忠彦は、文字通り写真と共に生きた写真家といえるでしょう。

本展は、初期の代表シリーズ『カストリ時代』と『文士の時代』に、『アメリカ1955』を加えて構成しています。『アメリカ1955』は初渡米した林忠彦が、戦後の豊かなアメリカを撮影したユーモア溢れるスナップで、今回は未発表の作品も多く展示しています。これらの作品を通して、林忠彦がどのように戦後を写し取ったかを見ていくことで、彼独自の写真観やその表現を探ろうとするものです。



「アメリカ1955」より 1955年



坂口安吾 1946年



リシタラ 1948年頃

フロアレクチャーのお知らせ

- 第1回：12月11日(土)
- 第2回：12月23日(祝)
- 第3回：1月9日(日)
- それぞれ午後2:00~

講演会「林忠彦を語る」

1994年12月17日(金)午後4:00~午後6:00

講師／秋山庄太郎(写真家)

斉藤康一(写真家)

林 義勝(写真家)

会場／東京都庁・都民ホール(都議会議事堂1階)

東京都新宿区西新宿2-8-1

講演に関するお問い合わせは東京都写真美術館まで。

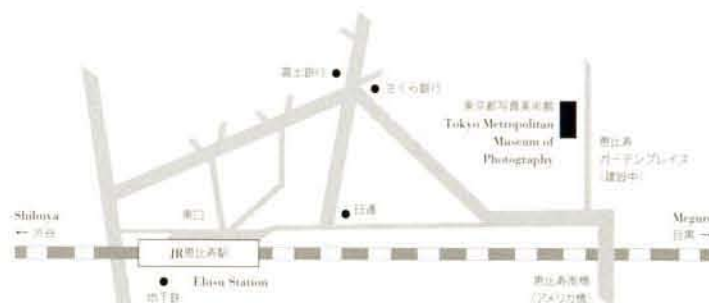
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

4-19-24 Ebisu, Shibuya-ku, Tokyo 150

Tel. 03-3280-0031(代)

〒150東京都渋谷区恵比寿4-19-24

東京都写真美術館



次回展覧会予告「もうひとつのヨーロッパ」会期/1994年1月28日(金)~3月22日(火)

展覧会のご案内「テレフォンサービス」Tel. 03-3280-0099

交通機関 JR恵比寿駅東口より徒歩8分

お車でのご来場はご遠慮ください

東京都写真美術館は、平成6年度に総合施設が現在の約7倍の規模で、開館します